

休園に思う

昨年10月に台風19号による休園がありました。あの時は土曜日の1日だけの休園でした。私には、「次に休園があるとするならば、台風か地震か」という考えしかありませんでした。浅はかなことです。そこからの約半年で、世界は考えてもいない方向に進みました。新型コロナウイルスの流行です。

保育園の毎日であった、友達と遊ぶ、おいしい給食を食べる、歌う。当たり前のように続けてきたことができなくなりました。保育の営みはコミュニケーション労働と言われることもあります。子どもの成長、発達からコミュニケーションを省くことはできません。新型コロナウイルスとの闘いは、長きに渡る可能性があります。この状況下の中で、子どもたちのよりよい育ちを考え、園にできることは何なのか。4月には、職員の気持ちを少しでも形にしようと「別冊どてのこ」を発行しました。只今、第二段を企画しております。

さて私事ですが、この連休は恒例の帰省をやめました。上京してから約30年経過しましたが、帰省しなかったことはほとんどありません。実家は稲作の兼業農家ですので、5月の連休は家族で田植えを行うと、子どもの時から決まっていた。植えるという行為は田植え機で行うのですが、冬の間にもぐらが掘った穴から田んぼの水が漏れないよう鍬で泥の壁を作る、田植え機が入れない隅を手で植える、田植え機まで苗床を運ぶ、苗床を洗うなど、人の手でやるのが多くあるのです。小学生になり、友だちが全員田植えをしているわけではないということに気づき、父に「〇〇ちゃんの家は旅行に行くって。なぜうちは田植え？」と聞きました。父は「国が5月の連休をなぜ作ったのか」といって、田植えをするためや。連休は田植えの為の休みや」と言いました。(真実かどうか不明)日頃優しい祖母は、もぐらの掘った穴を泥で埋める方法を教えてくれつつ、もぐらを見つけた際は鍬でモグラの頭をたたき割っていました。

保護者の皆さまも私と同じく、幼き日の家族や先生、友だちとの何気ないことが心に残っていませんか。考えてみるとそんな小さいことの積み重ねが、人間を創っていくのでしょうか。休園中、それぞれのご家庭にいる時間が長くなっています。何気ない言葉や行動が子どもを創り、パートナーとの関係性を創っていきます。完璧を求めず、さぼりましょう。おかれた状況の中で、笑いを見つけて笑いましょう。私も今は亡き祖母がもぐらの頭をたたき割った光景、固まった幼き自分を思いだし、笑いました。

園は5月中に、今年度予定していた園の内装壁張替え工事と、給食室冷蔵庫、スチームコンベクションの入れ替えを行います。開園に向けての準備を行うとともに、保育計画、行事への見通しはウィルスの感染予防に配慮しつつ最善を尽くしたいと考えます。

●6月以降の行事については、新型コロナウイルスの今後の状況を踏まえて考えてまいります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
5月	緊急事態宣言による休園の為、5月の行事は中止です。ぞうぐみ合宿は9月2~3日に延期しました。																														
							幼児組水筒持参開始	ひよこぐみ懇談会				避難訓練	健康体育	健診0・5歳	ことりぐみ懇談会	誕生会(写真撮影)					ぞうぐみ合宿							ダンス			